

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

|       |     |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 山形県 |
|-------|-----|

学校の概要

|     |            |    |    |    |    |    |      |    |     |
|-----|------------|----|----|----|----|----|------|----|-----|
| 学校名 | 真室川町立釜淵小学校 |    |    |    |    |    |      |    |     |
| 学 年 | 1年         | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 特殊学級 | 計  | 教員数 |
| 学級数 | 1          | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1    | 7  | 11  |
| 児童数 | 4          | 12 | 12 | 9  | 18 | 14 | 2    | 71 |     |

研究の概要

1. 研究主題

|  |
|--|
| <p>確かな学力の育成をめざして<br/>～少人数学級における個に応じた指導の充実～</p> |
|--|

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

|   |
|---|
| <p>・全学年 ・国語 ・算数<br/>全校で取り組めるように、基礎教科の国語、算数に絞った。</p> |
|---|

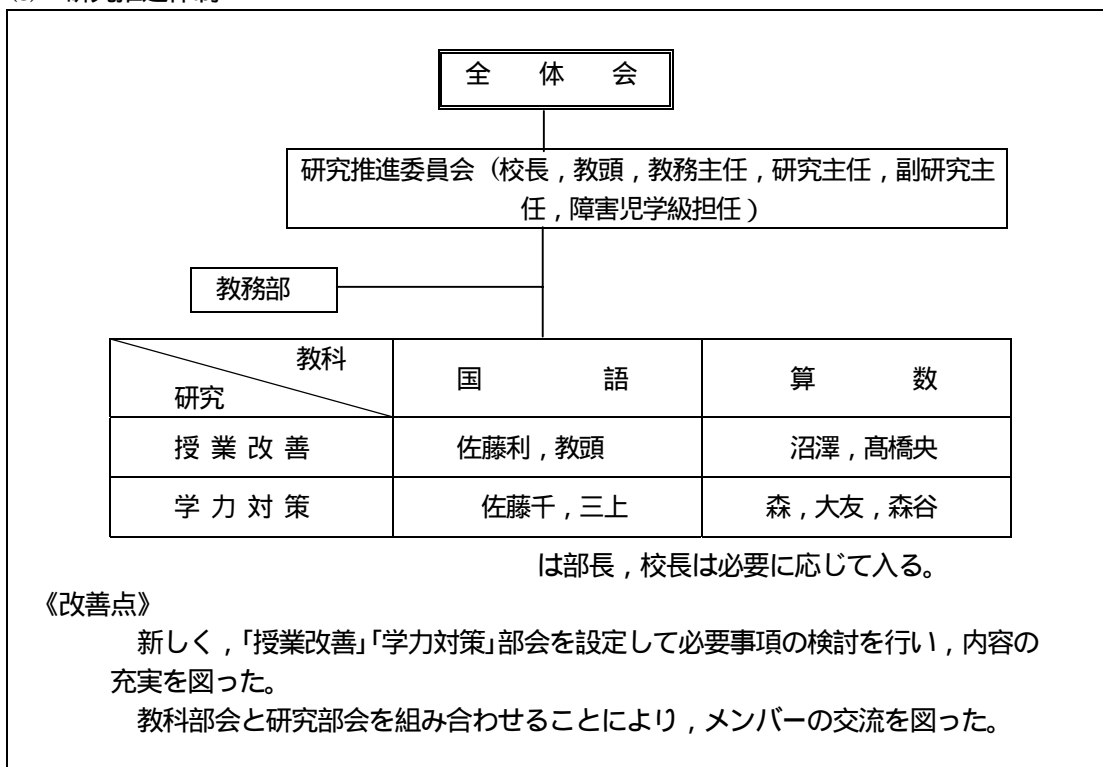
(2) 年次ごとの計画

|                    |   |
|--------------------|---|
| 平成<br>14<br>年<br>度 | <p>テーマ<br/>確かな学力の育成をめざして<br/>～少人数学級における個に応じた指導の充実～</p>  |
|                    | <p>研究の基礎作り</p> <p>( 研究の視点 ・研究内容・方法 重点項目 )<br/>         少人数学級のよさを生かした楽しく力のつく授業の創造<br/>         「基礎・基本」を確実に身につける授業のあり方<br/>         ・ 少人数学級のよさを生かした個に応じた指導のあり方<br/>         ・ 個の学びを高める話し合い活動の充実<br/>         学びの機会の充実と学ぶ習慣の形成<br/>         繰り返し指導による「基礎学力」の定着<br/>         ・ 学力テストの分析と手立て<br/>         ・ 朝読書の推進<br/>         学ぶ基盤をはぐくむ学級づくりと環境づくり<br/>         ・ 温かな支持的風土をもつ学級づくり<br/>         ・ ゆとりと充実を生む日課表等の工夫<br/>         交流学習の推進<br/>         ・ 2年国語、4年総合的な学習、5年算数、6年特別活動での交流</p> |

|                    |  |
|--------------------|--|
| 平成<br>15<br>年<br>度 | <p>テーマ</p> <p>確かな学力の育成をめざして<br/>～少人数学級における個に応じた指導の充実～</p> <p>研究の充実</p> <p>研究の見通し（視点）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「基礎・基本」を確実に身につける授業のあり方</li> <li>2 少人数学級のよさを生かした個に応じた指導のあり方</li> <li>3 個の学びを高める話し合い活動の充実</li> </ol> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「楽しく力のつく授業の創造」を目指し、視点に沿った授業改善</li> <li>2 学びを支える土台作りの実践</li> </ol> <p>《改善点》</p> <p>研究の視点を整理した。<br/>授業改善と研究を支える内容の両面から取り組んだ。</p> |
|                    |  |

|                    |   |
|--------------------|---|
| 平成<br>16<br>年<br>度 | <p>テーマ</p> <p>確かな学力の育成をめざして<br/>～少人数学級における個に応じた指導の充実～</p> <p>研究のさらなる充実</p> <p>研究の見通し（視点）<br/>（平成15年度と同じ）</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 15年度の課題を中心に取り組む。</li> <li>2 話し合いや表現活動の充実</li> </ol> |
|                    |   |

(3) 研究推進体制



1. 研究の成果

(1) 授業改善の視点から

授業研究会のあり方の見直し

授業改善のための一つの方法として、授業研究会の改善を試みた。事後研の話し合いのほかに、コメントカードを書いてもらったり、自己分析タイムを設けたりして、いろいろな角度から自分の授業を振り返るようにしたことで、授業改善に結びついた。

国語に関して

- ・ 児童が見通しを持って学習できる単元指導計画を立てることで、意欲が高まった。
- ・ 一人一人に合ったワークシートの準備をすることによって、学習をスムーズに行えるようにした。
- ・ 話し合いの学習形態を工夫したり、朝の会で1分間スピーチを継続したりするなど、各学級の工夫が見られた。
- ・ 視写力については、普通の授業でも速く書くことを意識して集中して取り組む子が増え、調査の回を重ねるたびに全体の記録が伸びている。(6月と1月の比較では、2年生で平均17文字 25.2文字, 4年生で平均23.2文字 34.1文字と増えている。)

算数に関して

- ・ 指導過程モデルを活用し、レディネステストによって実態をつかみ指導に生かすなど、授業の改善につながった。
- ・ 個に応じたプリントやTT指導によって習熟を図るなど、一人一人にささった指導がなされた。
- ・ 豊富な体験活動が保障され、体験を通しての理解が深まった。
- ・ 自分の考えを持たせるために、ノート指導が工夫された。
- ・ 100ます計算による計算力の向上が見られた。

(2) 学びを支える土台作りの視点から

ゆとりと充実を生む日課表の改善を図った。

はげみ学習について

スモールステップで進めるので、意欲を持って15分間集中して学習している。前学年や前々学年の復習になり、繰り返しの学習で力をつけている。



ステップアップテストについて

合格することで意欲の向上につながっている子が多い。また、合格を目指して家庭学習の質が向上したり、家庭の協力が得られたり(主に低学年)と、基礎学力アップ以外の良い面がみられた。

出席率について(1月末現在)

平成13年度97.17%,平成14年度98.61%,平成15年度98.85%

(3) NRTの結果から(単位:人)

|   |  |
|---|--|
| 国語<br> | 算数<br> |
|---|--|

